

# 新学習指導要領

## 改訂のポイント

## 改訂のスケジュール

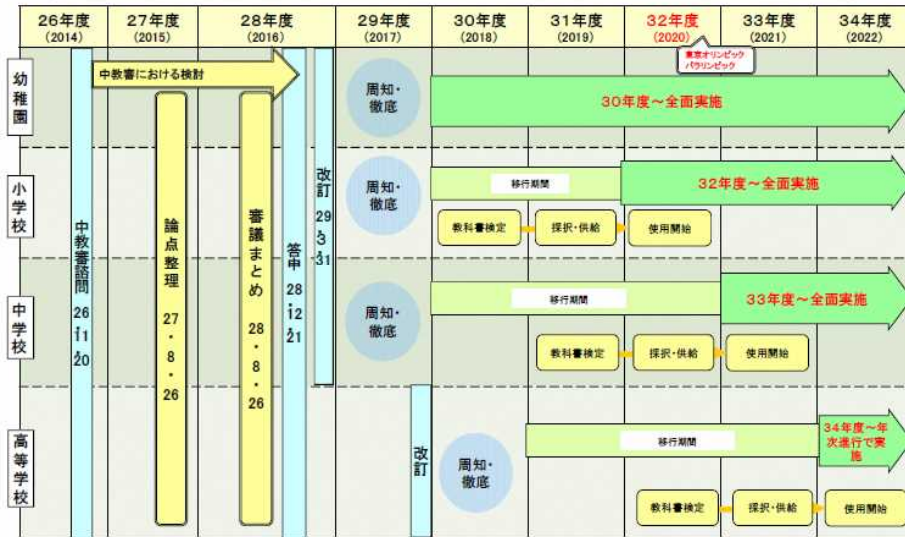
### 総合的な学習の時間における 移行措置の概要

# 総合的な学習の時間

徳島県教育委員会



今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール (現時点の進捗を元にしたイメージ)



特別支援学校学習指導要領(幼稚園及び小学部・中学部)についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。  
特別支援学校学習指導要領(高等部)についても、高等学校学習指導要領と一体的に改訂を進める。 3

### 3 各教科等ごとの特例の概要等

(1) 特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動については、新小学校学習指導要領によることとしたこと(ただし、総合的な学習の時間については、新小学校学習指導要領第5章第3の2(9)の後段の部分を除く。)

プログラミング教育はH32年度から  
(移行期間中であっても、情報に関する課題の中で取り扱うことも可能)

各学校が現行の教育課程に更に15単位時間の授業時数を加えて確保することが困難な場合など、外国語活動の授業時数の授業の実施のために特に必要がある場合には、総合的な学習の時間及び総授業時数から15単位時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができることとしたこと。

# 総合的な学習の時間

## 改訂のポイント

### 目 標

### 総合的な学習の時間 改訂のポイント

#### 改訂の基本的な考え方

- 探究的な学習の過程を一層重視
- 各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとする
- 各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する

#### 目標の改善

- 「探究的な見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指すものであることを明確化
- ◇ 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校の教育目標を踏まえて総合的な学習の時間の目標を設定することを示した

## 総合的な学習の時間 改訂のポイント

### 学習内容、学習指導の改善・充実

- 総合的な学習の時間の目標を踏まえた探究課題を設定する  
課題を探究することを通して育成を目指す資質・能力を設定する
- 各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活で総合的に活用できるものとなるよう改善
- 教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成するため、課題を探究する中で、
  - ・協働して課題を解決しようとする学習活動
  - ・言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動  
（「考えるための技法」を活用）
  - ・コンピュータ等を活用して情報を収集・整理・発信する学習活動  
が行われるように示した  
（情報手段の基本的な操作を習得し、情報や情報手段を主体的に選択、活用できるようにすることを含む）
- 自然体験活動、ボランティア活動などの体験活動、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れること等は引き続き重視
- プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付ける学習活動を行う場合は、探究的な学習の過程に適切に位置付くようにする

## 総合的な学習の時間の目標の趣旨(解説P8～17)

### 【第1目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、  
横断的・総合的な学習を行うことを通して、  
よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えて  
いくための資質・能力を次のとおり育成す  
ることを目指す。

### 【旧学習指導要領】

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

## 総合的な学習の時間の目標の趣旨(解説P8～17)

### 探究的な見方・考え方とは

- ①各教科等における見方・考え方を総合的に働かせる
- ②総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせる

各教科における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特徴に応じた見方・考え方を探究的な見方・考え方と呼ぶ。

## 総合的な学習の時間の目標の趣旨(解説P8～17)

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し探究的な学習のよさを理解するようにする。【知識及び技能】
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て情報を集め整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。  
【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。  
【学びに向かう力・人間性等】

総合的な学習の時間を通して  
育成することを目指す資質・能力



# 探究的な学習の過程における 「主体的・対話的で深い学び」

## 主体的な学び

探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」(解説P111~)

学習に積極的に取り組ませるだけでなく  
学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、  
次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである

○学習過程の中で児童が主体的に学んでいく上では、**課題設定と振り返り**が重要

### <課題設定>

○児童が自分事として課題を設定し、主体的な学びを進めていくようにする

↓

○実社会や実生活の問題を取り上げること

○学習活動の見通しを明らかに

↓

○学習活動のゴール、そこに至るまでの道筋を鮮明に描くことができるような学習活動の設定を行う

### <振り返り>

○自らの学びを意味付けたり、価値付けたりして自覚し、他者と共有したりしていくことにつながる

○学習活動を振り返り、体験したことと収集した情報や既有的知識とを関連させ、自分の考えとして整理する**深い理解**にもつながる

○振り返りは必ずしも単元の最後に行うとは限らない

## 対話的な学び

探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」(解説P112)

他者との協働や外界との相互作用を通じて、  
自らの考えを広げ、深めるような学びである

以前より、他者とともに探究的な学習に取り組むことを大切にしてきた。  
**探究的な学習の過程を質的に高めていくために異なる多様な他者と力を合わせて課題の解決に向かう**

### <多様な他者と対話することの価値>

①他者への説明による

情報としての知識や技能の構造化

②他者からの多様な情報収集

③他者とともに新たな知を創造する場の構築と課題解決に向けた行動化への期待

情報の質と量、再構成の方法等に配慮して具体的な学習活動や学習形態、学習環境として用意

○考えるための技法

○授業改善の工夫により、思考を広げ深め、**新たな知を創造する子供の姿**が生まれる

### ○協働的な学習

→グループとして結果を出すことが目的ではなく、その過程を通じて、一人一人がどのような資質・能力を身につけるかが重要

→グループとして考えるだけでなく、一人一人が**学習の見通し**をもったり、振り返ったりすることが求められる

### ○「対話的な学び」

- ・他の児童生徒と活動を共にする
- ・一人で自己の中で対話
- ・先人考えなどと文献で対話
- ・ICT機器などでつないで対話

## 深い学び

探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」(解説P113)

探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に**学習過程の質的向上**を目指すことが求められる

○各教科で身に付けた「知識及び技能」は関連付けられて**概念化**し、「思考力、判断力、表現力等」は活用場面と結び付いて**汎用的なもの**となり、**多様な文脈**で使えるものとなることが期待できる

### <探究的な学習の過程が充実>

○各教科で育成された資質・能力は **繰り返し活用・発揮**される

○生きて働く知識及び技能として習得され、

○未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等が育成される

○学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養につながる

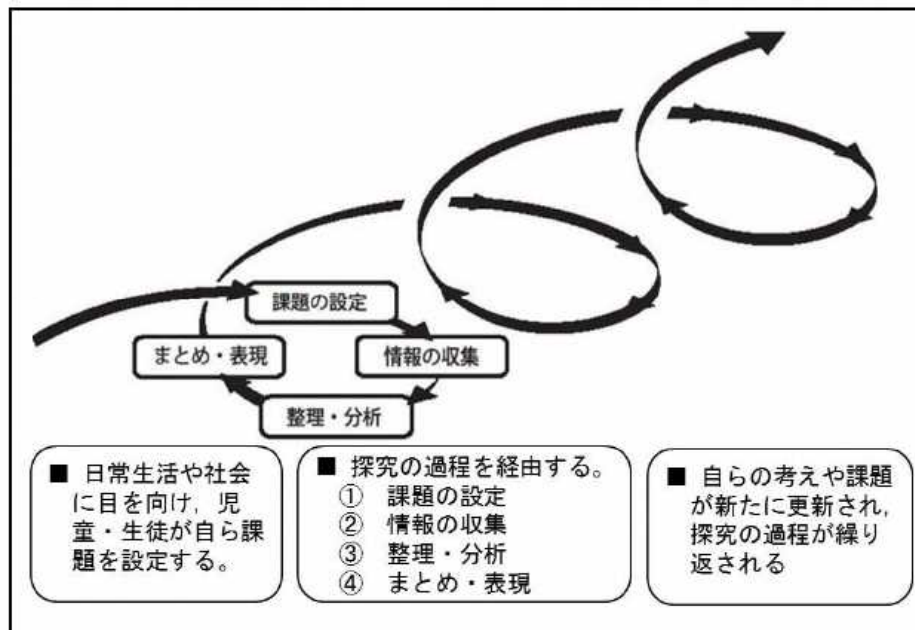
1 学習過程を探究的にすること

- ①【課題の設定】  
体験活動などを通して、課題を設定し課題意識を持つ
- ②【情報の収集】  
必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③【整理・分析】  
収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④【まとめ・表現】  
気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

順序よく繰り返されるわけではなく、順番が前後することもあるし、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合がある<sup>18</sup>

## 探究的な学習の 指導のポイント

### 探究的な学習における児童生徒の学習の姿



### 【課題の設定】

- 人、社会、自然に直接関わる体験活動においても、**探究課題（学習対象）との関わり方や出会わせ方などを、教師が工夫する必要**
- これまでの児童の考えとの「**ずれ**」や「**隔たり**」を感じさせたり、対象への「**憧れ**」や「**可能性**」を感じさせたりする工夫
- 対象に直接触れる体験活動が重要**であり、そのことが、その後の息の長い探究的な学習活動の原動力
- 考えるための技法**を活用する

- ・ 体験活動
- ・ 資料を比較
- ・ KJ法的な手法
- ・ イメージマップ

etc

## 【情報の収集】

- 収集する情報は**多様**であり，学習活動によって変わる
- 課題解決のための情報収集を**自覚的**に行う
- 収集した情報を**適切な方法**で蓄積する
- 各教科で身に付けた**資質・能力**を発揮する
- 必要に応じて**教師が意図的**に資料等を提示

・ 観察，見学，実験，追体験，  
インタビュー，アンケート，  
図書，インターネット etc

21

## 【整理・分析】

- 収集した情報を**比較したり，分類したり，関連付けたりして**情報内の整理を行う
- 児童自身が**情報を吟味**する
- どのような方法で情報の整理や分析を行うのかを決定する
- 考えるための技法**を活用する

・ グラフ，カード，マップ，図，表，  
ホワイトボード etc

22

## 【まとめ・表現】

- 相手意識**や**目的意識**を明確にしてまとめたり，表現したりする
- まとめたり表現したりすることが，情報を再構成し，**自分自身の考え**や**新たな課題**を**自覚**することにつながる
- 伝えるための**具体的な方法**を身に付けるとともに，それを**目的に応じて選択**して使えるようにする
- 教科で身に付けた力**を発揮

・ レポート，新聞，ポスター，パンフレット，  
プレゼンテーション，絵，音楽 etc

23

## 探究的な学習の指導のポイント(解説P119~123)

### 2 他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

- (1) 多様な情報を活用して協働的に学ぶ
- (2) 異なる視点から考え協働的に学ぶ
- (3) 力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ
- (4) 主体的かつ協働的に学ぶ

### 【協働的に学ぶことの意義】

- ・ **多様な情報の収集に触れる**こと
- ・ **異なる視点から検討**できること
- ・ 地域の人と交流したり友達と一緒に学習したりすることが，**相手意識を生み出したり**，学習のパートナーとしての**仲間意識を生み出したり**すること

## 考えるための技法の活用

考えるための技法の活用(解説P82~86)

### 考えるための技法(思考スキル)

「考える」ことを具体化すると...

- 順序付ける
- 比較する
- 分類する
- 関連付ける
- 多面的にみる・多角的にみる
- 理由付ける
- 見通す
- 具体化する
- 抽象化する
- 構造化する

考えるための技法の活用(解説P82~86)

### 考える技法を活用する意義

- 探求の過程のうち特に「情報の整理・分析」の過程における思考力・判断力・表現力等を育てる。
- 協働的な学習を充実させる。
- 総合的な学習の時間が、各教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成すると同時に、各教科で学んだ資質・能力を実際の問題解決に活用したりするという特質を生かす。

考えるための技法の活用(解説P82~86)

考えるための技法と思考ツールをセットで

「考える」ことを具体化・可視化する

教科等を越えて、児童の思考を助ける

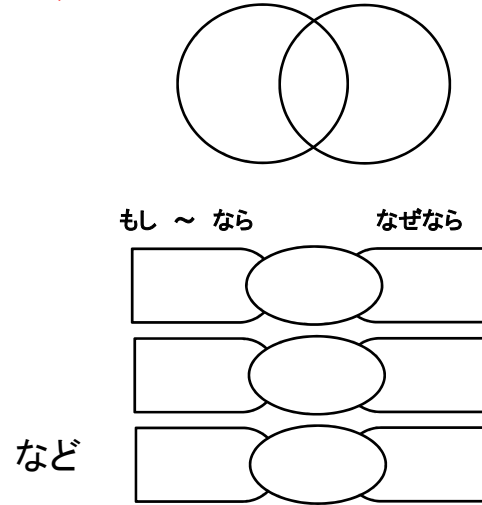
協働的な学習、対話的な学習を実現する

学習の振り返りや指導の改善に活用できる

## 思考ツールの活用について

具体化したことを可視化するために

- ベン図
- イメージマップ
- くまでチャート
- XYチャート
- PMI図
- ・ピラミッド・チャート
- ・キャンディ・チャート



1つの思考スキルに  
1つの思考ツールを使う。

### 〇〇小学校思考ツール

- (例)
- 比較する→ベン図
  - 分類する→YXチャート
  - 多面的にみる→くまでチャート
  - 関連づける→イメージマップ
  - 構造化する→ピラミッド・チャート
  - 評価する→PMI図

### 思考ツールを活用する際の留意事項

ツールを活用すること自体が目的化しないようにする

「考えるための技法」を用いた思考を可視化するという事は、言語活動の一つの形態であり、言語活動の様々な工夫とあわせて効果的に活用することが望まれる

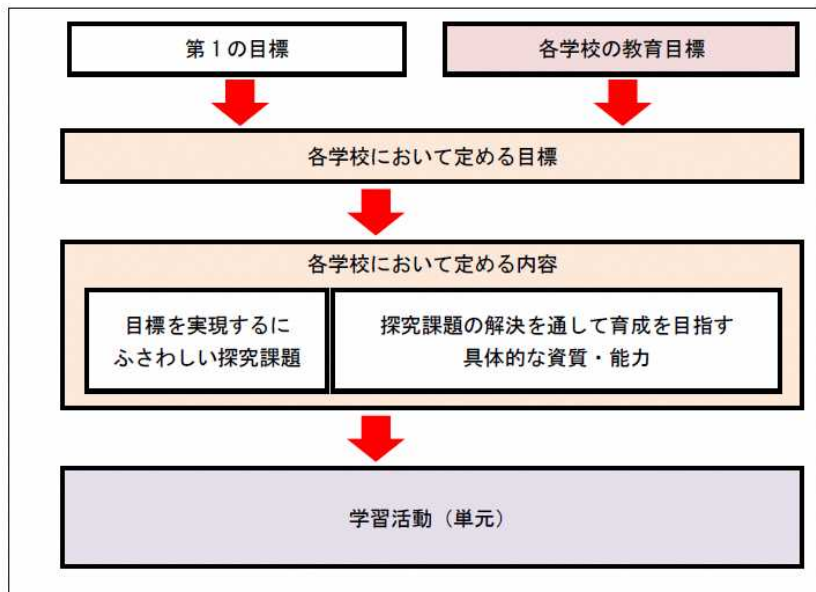
## 総合的な学習の時間の 指導計画の作成

- 1 目標
- 2 内容
  - 探究課題
  - 3つの柱の沿った  
資質・能力



## 総合的な学習の時間の指導計画の作成(解説P68)

〈目標と内容と学習活動の関係〉



## 総合的な学習の時間の目標の設定例(解説P70~72)

### 第1目標

探究的な見方・考え方を働かせ、**横断的・総合的な学習**を行うことを通して、**よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。**【知識及び技能】**
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。**【思考力、判断力、表現力等】**
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。**【学びに向かう力・人間性等】**

## 総合的な学習の時間の目標の設定例(解説P71)

探究的な見方・考え方を働かせ、**地域の人、もの、こと**に関わる総合的な学習を通して、**目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。**

- (1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、**地域の特徴やよさに気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。**
- (2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、**考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。**
- (3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、**持続可能な社会を実現するための行動の仕方**を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

具体化

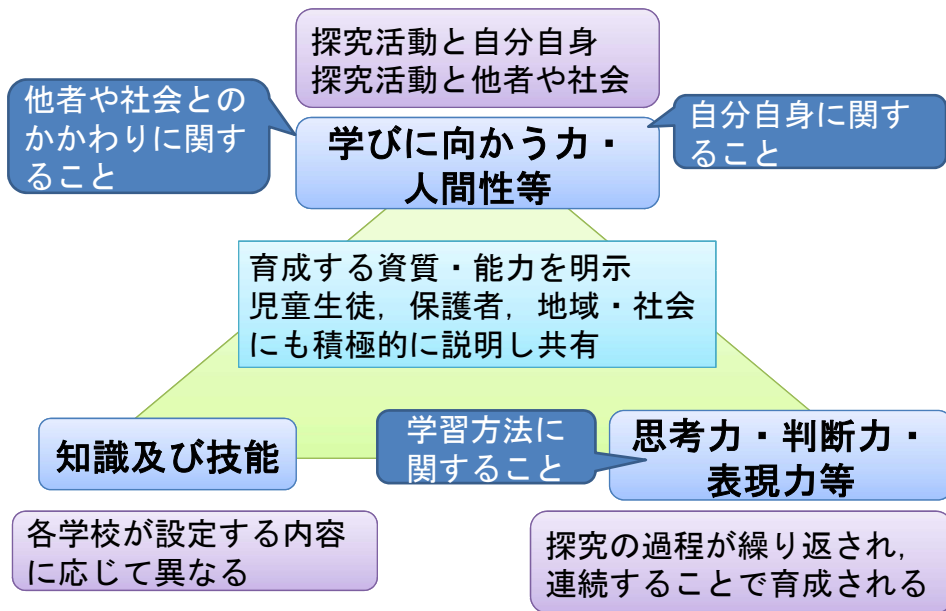
重点化

付加

## 各学校が定める内容とは(解説P73~88)

三つの課題	探究課題の例
横断的・総合的な課題 (現代的な諸課題)	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観(国際理解)
	情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化(情報)
	身近な自然環境とそこに起きている環境問題(環境)
	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々(福祉)
	毎日の健康な生活とストレスのある社会(健康)
	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題(資源エネルギー)
	安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々(安全)
	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者(食)
	科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化(科学技術)
	など
地域や学校の特色に応じた課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織(町づくり)
	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々(伝統文化)
	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会(地域経済)
	防災のための安全な町づくりとその取組(防災)
	など
児童の興味・関心に基づく課題	実社会で働く人々の姿と自己の将来(キャリア)
	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展(ものづくり)
	生命現象の神秘や不思議さと、そのすばらしさ(生命)
	など

## 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力 (解説P78～82)



## 全体計画の作成(P89)

### 全体計画の作成

#### ①必須の要件として記すもの

- ・各学校において定める目標及び内容
- ・目標を実現するにふさわしい探究課題
- ・探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

#### ②基本的な内容や方針等を概括的に示すもの

- ・学習活動
- ・指導方法
- ・指導体制（環境整備、外部との連携を含む）
- ・学習の評価

#### ③その他、各学校が全体計画を示す上で必要と考えるもの

- ・年度の重点・地域の実態・学校の実態・児童の実態・保護者の願い・地域の願い・教職員の願い
- ・各教科等との関連・地域との連携・中学校との連携・近隣の小学校との連携など

## 総合的な学習の時間の評価(解説P124～128)

### 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

○各学校が総合的な学習の時間の目標を定める。この目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力を示した内容が設定される。この目標と内容に基づいた観点を、各学校において設定することが考えられる。

○第2の3の(6)において、

ア 知識及び技能については、他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。

イ 思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。

ウ 学びに向かう力・人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。

とされていることに配慮することが大切